

Mado 窓



新病院オープンにあたり 「新病院建築」その基本構想と目指すところ

北里大学病院長
新病院プロジェクト本部長 海野 信也

北里大学病院の新病院（本館と呼ぶことにいたしました）は、平成26年4月20日に開院式を行い、4月29日に病棟移転、5月7日に外来開始の予定となっております。新しい北里大学病院は、未来に向かって開かれた「成長する病院」です。高度先進医療と地域医療貢献の両立をめざします。よろしくお願い申し上げます。

●北里大学「新病院プロジェクト」では、北里大学の大学病院と東病院という相模原の2つの病院の役割分担を見直し、急性期医療の機能を大学病院に集約し、東病院は、これからの地域医療に必要な予防医学・回復期リハビリテーション・在宅支援・緩和ケア、精神科診療等の医療を提供する自立支援、回復支援の病院へと生まれ変わることしております。

●その上で、大学病院に関しては、以下のような考え方で、ハード面、ソフト面の両面で整備を進めてまいりました。

1. 老朽化した設備を発展的に更新し、免震構造とするとともに、省エネ化、省CO₂化を実現、最新の「スマート・エコホスピタル」へと生まれ変わらせて、安全、快適で環境に優しい療養環境を提供する。
2. 最新鋭の設備を充実させ、特定機能病院として高度先進医療をさらに推進する。
3. チーム医療の推進、地域医療連携の推進を通じて、患者さま中心の医療、地域医療貢献をさらに進めていく

●特定機能病院として高度先進医療をさらに推進するための最新鋭設備としては以下のような整備を行いました。

- 総合手術センターの充実
 - ・手術支援ロボット da Vinciの導入
 - ・術中に血管造影や血管内治療を実施できるハイブリッド手術室
 - ・手術室にCT装置を配置
- 放射線関係
 - ・CT装置を6台設置（このうち64列128スライスの最

- 新鋭機が5台、1台は透視用に手術センター内に新設
- ・MRI装置 5台設置（3テスラ3台、1.5テスラ2台）
- ・血管造影装置 6台（1台は救急、1台は手術センター内）
- ・PET-CT 2台、SPECT-CT 2台、一般撮影装置7台、透視装置6台
- ・外部放射線治療室3室、小線源治療室2室を整備：最新の放射線治療装置 3台を設置（TrueBeam 2台）

●新しい北里大学病院には、以下のような新たな組織を設けました。

- 「トータルサポートセンター」：患者中心の医療、地域医療連携の推進の要。施設間連携、地域連携を推進し、地域の医療・介護を担っておられる関係者と協力してこの地域における地域包括ケアの実現に向けて体制を整備してまいります。
- 「集学的がん診療センター」：高度ながん治療を行うとともに地域がん診療を支えてまいります。
- 「救命救急・災害医療センター」：地域の三次救急医療を担い、大規模災害時には危機対応の拠点として機能します。
- 「周産母子成育医療センター」：総合周産期母子医療センターでは母体、胎児、新生児の重症疾患、救急に対応し、PICUでは小児重症患者に対応します。妊娠期から小児期を通じた成育医療を、大学病院の中で、家族中心の医療family centered careとして実現してまいります。

（うんの のぶや：産科学 教授）

新大学病院は 地域医療連携の中でこそ機能する



北里大学病院副院長
新病院開設準備室長 洪谷 明隆

新しい北里大学病院は「成長する病院」です。私たちは将来の医療と社会の変化に対応して求められる役割を果たすことのできる柔軟性を備えた大学病院を目指しています。柔軟性は建物の構造（ハード）から組織や人（ソフト）にまで及びます。少子高齢化社会の次には大勢の高齢者が寿命を迎える多死時代があり、さらにその先には人口減少時代がきます。こうした変化の中で、大学病院といえども、いや、大学病院だからこそ、医療連携の中でしか役割を果たせなくなる、と考えています。特に市立病院のない相模原市では、都内の大学病院とは異なる役割が北里に求められています。私たちはこの地域における北里の存在意義を、“大学病院としての人材育成”と“高度先進医療の提供”ととらえて計画を進めてきました。

今回のリニューアルで北里大学新病院と新しい東病院は機能を分担しながら、疾病の予防から急性期、回復期、慢性期、在宅に至る一連の医療の流れ（医療のValue Stream）を提供します。北里にはこのValue Streamのあらゆる段階で、医療人材を育成し輩出するという医療系大学としての重要な役割があります。事実、相模原、町田、県北地域の医療機関には大勢の北里出身の医師、看護師、薬剤師、検査技師などが働いています。教育機関であること、これが北里の原点のひとつです。

一方で、北里には特定機能病院として、高度先進医療を提供するという役割があります。北里がすべての分野の高度医療を提供することはできません。新病院ではがん診療、周産母子成育医療、救命救急・災害医療の3分野を重点的に整備しました。次の段階は血管病対策と考えています。これら先進的医療を支えるために、手術室、ICU、MRI、CT、PETな

どを整えました。放射線治療装置も最新鋭の機器を揃えています。これらはValue Streamの急性期あるいは特定機能病院としての役割りで、大学病院のいわばお得意分野です。

Value Streamのなかには北里ではなく地域医療機関にお願いしなければならない分野も多くあります。新しい地域連携ではValue Streamのどこからでも、患者さんを中心に地域の医療機関とあるいは行政と密接な連携を構築したいと考えています。人口減少の中で社会インフラとして投入できる医療資源には限りがあるので、地域全体が有機的に結合した一つの医療機関（運命共同体）として機能するという考えです。ご紹介いただいた患者さんに北里として行える必要な医療を提供し、その後は速やかに地域にお返しします。もちろん、必要に応じて連携の中で北里の装備を使っただけの経過観察をさせていただくこともあるかと思います。地域医療連携のなかでこそ、新しい北里大学病院は機能すると考えています。

こうした新しい医療連携は患者さんご自身にも理解していただく必要があります。患者さんを中心にした医療連携の象徴として、北里大学新病院では病院のど真ん中にトータルサポートセンターを設置しました。ここは、患者さんの入退院を支援すると同時に地域医療機関との窓口になります。新大学病院ではトータルサポートセンターを新しい医療連携のハブとして機能させたいと考えています。成長する病院の「成長」はこれからです。地域医療機関の方々と一緒に、無理や無駄のない連携システムを構築していきたいと願っています。よろしく申し上げます。（しづや あきたか：経営企画室室長、医療安全・管理学 教授）

循環器内科学教授就任および今後の抱負



北里大学医学部
循環器内科学 阿古 潤哉

北里大学循環器内科学に2013年6月1日付けで赴任いたしました阿古潤哉と申します。循環器内科学教授就任にあたり一言ご挨拶させていただきます。前任地の自治医科大学附属さいたま医療センターにおいて、カテーテルを用いた治療を中心に行っていました。当院においても、まずは侵襲的治療の更なる拡大をはかってゆきたいと考えております。冠動脈インターベンション施行時にはOCTを含む最新鋭の心血管イメージング法がすでに日常臨床に取り入れられてきています。今後は、さらに一步進んで次世代の画像診断法である近赤外線によるプラークの性状診断などを用いることにより、現在の最新治療のみならず明日の医療につながるような臨床研究も行ってゆきたいと考えております。また、経皮的な弁膜症治療にも関わってゆく予定です。

急性心筋梗塞、不安定狭心症などを含むいわゆる急性冠症候群のカテーテル治療は救急部との連携のもとで行われており、新病院においても一つの柱となると考えております。特に、急性心筋梗塞症に対しては緊急治療時にカテ室へのスムーズな移行を行うことにより患者が到着してから実際にカテーテルによる治療を受けることができるまでの時間をさらに短縮することを目指しています。CCUから病棟に至るまで質の高い治療を行うことにより、急性期のみならず慢性期での予後改善も目指した医療を提供できると自負しております。近隣医家との連携を深めることによりさらに充実した急性期医療を行うことを目標としております。

心不全患者に対する治療の充実も地域の中で当科に望まれる役割だと認識しております。患者一人一人の違いにあわせた治療を行うことにより、入院加療を要する心不全患者に対し最良の治療の選択がで

きる病院でありたいと考えております。特に重症心不全患者に対する治療に関しては今まで以上に積極的に取り組んでいきたいと考えております。心臓同期療法（CRT）や補助人工心臓（VAS）などが適応となる患者、あるいは心臓移植の適応となる患者の管理も循環器チームとして優れた診療ができる体制を維持しさらに拡充してゆく所存です。

エビデンスに基づく医療の普及により、循環器診療は大きく変わってきました。薬物療法も治療法の進歩に伴い大きな変動を遂げています。心疾患の長期的予後の改善には薬物治療のみならず、当科で積極的に行っている心臓リハビリテーションも大きな効果を発揮することがわかっています。このような包括的に患者管理に取り組むチームとして、最新の治療を取り入れつつも地域の医療機関の一員として、皆様の信頼を得てゆくことのできる科を目指していきたいと考えております。

この原稿が出る頃には既に新病院もほぼ完成して引っ越し準備にさしかかっている頃であろうと考えます。この大きく新しい病院に移り循環器を率いていくことに対し、改めて身の引き締まる思いです。今後とも皆様なにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（あこ じゅんや：循環器内科学 教授）

“相模原町田地区介護医療圏 インフラ整備コンソーシアム”の活動について

事務局
(トータルサポートセンター病診連携事務担当) 中溝 一男

昨年12月8日に“相模原町田地区介護医療圏インフラ整備コンソーシアム”を立ち上げ多くの方々より賛同を頂きました。その後、下記の活動を開始しましたのでご紹介します。

1. コンソーシアム参加者の取り纏めと連絡網の整備

- ①当コンソーシアムには、137名(件)の申込みがありました(3月18日現在)。
- ②メーリングリストの整備とコンソーシアムのブログを立ち上げました。
(アドレス：<http://medicalandcare.blogspot.jp/>)

2. 多職種協働ワーキングの立ち上げと講習会・研修会の企画運営

①症例検討会の開催

TV会議システムを利用して下記の症例検討を開催しました。当日は、7つの会場と同時中継しながら大変有意義な検討会となり、参加者(100名余)による活発な意見交換が行われました。

・第1回症例検討会

「快便生活を目指して第1回(全3回開催)」

講師：亀田総合病院 産婦人科部長代理・
ウロギネコロジーセンター副センター長
神山 剛一先生

日時：3月17日(月) 18:30～20:00

※第2回 4月24日(木) 18:30～

申込み方法は、上記のブログをご欄ください。



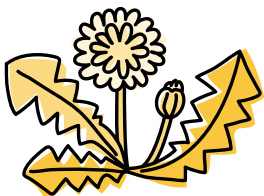
第1回症例検討会(会場：北里大学病院)

②嚥下評価と栄養指導

コンソーシアムに参加した栄養士が在宅の居宅療養指導(訪問栄養指導)を行うため、町田地区の病院と協働しながらその仕組み作りを検討しています。

相模原地区では、在宅医療を熱心に行っている病院を中心に同じような取組みが出来ないか検討していく予定です。

(なかみぞ かずお：トータルサポートセンター)



〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学病院 トータルサポートセンター
TEL 042-778-9988 FAX 042-778-9599
<http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>
E-mail / shoukaiw@kitasato-u.ac.jp